

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

## 【ブリンクマン指数】

英 Brinkman index

### 【用語の解説】

喫煙指数あるいは禁煙指数と呼ばれることもある。実際には、(一日の喫煙本数) × (喫煙した年数) で表される数字のことである。400を越えると肺がんなどの各種がんの発症率が高くなるとされ、肺がんのほかに胆嚢がんや喉頭がんなどの発症リスクが知られている。平成18年より禁煙補助薬によるニコチン依存症治療が保険適用となったが、この際にもブリンクマン指数が200以上あることが必要要件となっている。このように重要視されるブリンクマン指数であるが、なぜかこの用語が掲載されている内外の論文の著者はすべてといってよいほど日本人である。実はその理由が明らかにされており、昭和39年に、愛知県のとある医師が米国の Brinkman 医師の論文で上記の〈一日の喫煙本数〉と〈喫煙年数〉が記載されているのを見て作り出した一種の造語というのが事実のようだ。欧米をはじめ他の諸国では、〈一日に喫煙したタバコの箱数〉 × 〈喫煙年数〉である、Pack-year の用語が用いられるのが一般的である。ひと箱中のタバコの本数は20本なので、ほぼ同じ意味合いと言える。広く知られており有用度も高いブリンクマン指数ではあるが、喫煙年数を重視しているため、必然的に中高年が主な対象となり、若年者の発がんリスクを減らし禁煙を啓発するにはさらに適切な指標が必要になると思われる。

(国立病院機構東京病院 副院長 庄司 俊輔)

本誌47p に記載